

可茂農林事務所の普及活動状況（6月）

今月の重点活動

■トマト研修生 美濃白川夏秋トマト基礎講座の開催

美濃白川夏秋トマト基礎講座は、美濃白川就農応援会議と美濃白川夏秋トマト部会の共催による研修生向けの座学研修会です。研修生は、あすなる農業塾長の元で作業を中心に学ぶとともに、本基礎講座により科学的な根拠を学ぶ事により、作業内容を理論的に理解することができます。

本年は、研修生1名を受講対象者として、第1回講座を6月8日に開催しました。講師は可茂農林事務所農業普及課職員が務め、あすなる農業塾長がトマト生産者の目線から、具体的かつ実践的なアドバイスを行う体制で行いました。今回は、予め作成したテキスト（栽培暦徹底解説）に基づき、育苗・定植に関する各作業の必要性などについて講義しました。

今後は、すでに就農した生産者へも参加を募り、テキストによる講義だけでなく、お互いに意見交換ができる場としても活用を考えていきます。

（園芸産地支援係・矢嶋雄二）



【第1回基礎講義】

売れるブランドづくり

■大豆 播種作業は順調に終了

白川町では、6営農組合が大豆栽培に取り組み、地元の豆腐加工グループに大豆を供給しています。

本年は5月24日から播種作業を開始しましたが、天候に恵まれたことで作業が順調に進み、約2週間で25.5haの播種作業が終了しました。播種後の好天もあって、10日程度で出芽も出揃い、順調に生育しています。

3年前から収量減が続いているため、前作終了後に品種の統一や排水対策の徹底等の技術支援を行っています。今後も、実需者に安定供給ができるよう関係機関と連携して支援をしていきます。

（地域支援第二係・黒川純子）



【大豆播種作業】

■さといも ほ場巡回

中濃里芋生産組合美濃加茂支部の会員11名が円空さといもを栽培しています。

今年の定植時期は、3月末から5月下旬であり、ほぼ定植の終わった5月26日に、JA営農指導員とともに栽培農家のほ場を巡回して生育状況を把握しました。早く定植されたほ場では、3葉期となり順調な生育となっています。

今年は新規栽培者や各農家の面積拡大により全体の栽培面積は、1.3haから2.0haに増加しました。

6月17日には新規栽培者2名に対して、親芋の余分な葉を抜き取る作業（ダツかき）の現地指導を行いました。今後もきめ細かな新規栽培者支援を行っていきます。

（地域支援第一係・宮地雄二）



【生育順調な円空さといも】

■ 堂上蜂屋柿 産地振興にむけ、プロジェクト会議

美濃加茂市では、堂上蜂屋柿を市の特産品として発信できる拠点施設の整備を中心とした「蜂屋柿の里構想」を策定しています。その具体的な推進のため、今年1月に、振興会・JA・市・県によるプロジェクト会議を立ち上げました。

前回の会議では生産者を対象に、経営状況や今後の生産継続に関してアンケートを行うこととし、2月から5月までに実施・集計を行いました。6月8日にプロジェクト会議を開催し、農林事務所からアンケート集計結果を説明し、それを基に産地振興のための課題等を検討しました。

また、6月18日には振興会役員会が開催され、アンケート結果に対し、「普段感じ取っている会員の動きと同じである。」「会員の状況がよりはっきりした。」「振興策は生産者の考えを十分聞いて、これを反映したものとしてほしい。」との意見が出されました。

今後生産者の意見も取り入れつつ、関係機関とともに堂上蜂屋柿の産地振興を支援していきます。

(園芸産地支援係・宮田洋輔)



【プロジェクト会議】

■ いちご 採苗最盛期 優良子苗確保を支援

可茂地域では、18軒の農家がいちご栽培に取り組んでいます。前作では、育苗時に病害発生に悩まされた農家があり、今年は例年以上に慎重な管理作業が行われています。

5月から天候に恵まれたことにより、いちご親株が順調に生育し、現在盛んにランナー(親株から出た茎が地表面を這うように長く伸び、先端の節から芽や根が生じ子株となる)を伸ばしています。6月は採苗の盛期であり、農林事務所では、栄養診断値等に基づいた肥培管理指導、病害虫管理指導により優良な子苗が確保できるよう、新規就農者など栽培経験が少ない農家を中心に支援しています。

(園芸産地支援係・熊澤良介)



【採苗中のハウス】

多様な担い手づくり

■ 県就農支援センター研修生 研修修了式開催

6月15日、県就農支援センターの研修者修了式が開催され、研修生2名に研修修了証が授与されました。

可茂管内では、就農支援センター卒業生1名が美濃加茂市内で就農する予定となっており、トマト栽培が行われているハウスを引き継いで経営を開始します。農林事務所では、これまでも就農地の選定および就農計画の作成等の支援を行ってきました。

今後も、新規就農者の早期経営安定に向けて、関係機関と連携しながら支援を行っていきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮)



【抱負を語る研修生】